

ハイライトよねやま78

(財)ロータリー米山記念奨学会
2006年8月11日発行

1. 寄付金速報 — 今年度も特別寄付金が好調なスタート! —

2006-07年度が始まって1カ月が経過しました。7月の寄付金は約2億4千万円で、前年度に比べて7.3%増、約1千6百万円の増加です。普通寄付金が3.3%増、特別寄付金が20.4%増と、昨年度7月に引き続き、とりわけ特別寄付金が良好な滑り出しです。

前年度は14億5千万円の予算目標に対し、約1千万円上回るご寄付をいただきました。今年度も前年と同額の予算目標を立てています。今後、奨学生採用数800人を縮減することなく維持、さらには拡大できますよう、米山奨学事業への一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

2. 2007学年度採用の指定校が決定!

来年4月採用の指定校が決まりました。各地区選考委員会からの報告によると、2007学年度の指定校は399校で、昨年(401校)とほぼ変わらず、うち5校が“地区奨励奨学金”対象校として大学以外の高等教育機関が選ばれました。また、大学学部3~4年に相当する高等専門学校専攻科を指定校とした地区は、昨年より1地区増加。また、過去最多となる24地区が、独自の選考基準を大学へ提示しました。多く挙げられた基準は「国籍割合への配慮」、「日本語運用能力」、「ロータリー活動への理解、積極的参加」などです。

推薦者数の合計は全国で1,613人、この中から新規採用583人が選ばれます。

YUに高専専攻科を指定校に含めた地区(3地区)

2600 地区:長野高専専攻科
2640 地区:和歌山高専専攻科
2650 地区:福井高専専攻科

地区奨励奨学金導入地区(4地区)

2550 地区:アジア学院
2660 地区:日本学生支援機構大阪日本語教育センター
2680 地区:神戸YMCA学院専門学校、(財)PHD協会
2760 地区:愛知江南短期大学

地区を超えた指定校導入地区(1地区)

2770 地区が、2580 地区の東京大学(医学系)・お茶の水女子大学、および2790 地区の聖徳大学を指定

※指定校は8月中旬に当会HPで発表します

3. たび重なる天災へのお見舞い — 奨学生・学友の安否確認について —

7月15日以降、発達した梅雨前線による集中豪雨が山陰、北陸、長野県、そして九州各地を襲い、「平成18年7月豪雨」と命名されるほどの甚大なる被害をもたらしました。被災地域の皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

当会から、これらの地域に居住する米山奨学生(32人)に災害見舞いのメールを送り、被害の確認に努めました。幸いなことに、いずれの奨学生も無事で、家屋の浸水など重大な被害の報告もありませんでした。同じころ、韓国でも集中豪雨によって日本以上の水害被害が出ていたことから、江原道・慶尚南道在住の学友29人にも災害見舞いのメールを送りました。感謝の気持ちと近況を知らせるメールやFAXが相次ぎ、母国に帰った学友の消息を知り、彼らとの絆を強める機会にもなったようです。

7月17日には、インドネシア・ジャワ島で、5月に続いて再び大きな地震が発生しました。インドネシア出身のある奨学生からは、「被災地のごく近くに弟が住んでいて、大変心配したが、幸いにも無事であった」と安堵のメールが届きました。

4. 第2回寄付金増進タスクグループ開催報告

7月12日(水)、第2回目の寄付金増進タスクグループが開催されました。今回は島津理事長も出席し、主に表彰品の改定と、寄付増進の具体的な方策案について話し合われました。

協議の結果、表彰品の改定に関しては常務理事会へ上程したうえで、具体的な改定内容を詰めていきます。寄付増進の方策に関しては「ガバナーや、地区で影響力のある方々へ当会の事業内容をお伝えし、広報していただく」という意見で一致しました。本タスクグループの報告は、8月30日開催の理事会・評議員会で配布し、各地区で実践いただくようお願いする予定です。このタスクグループは今回で終了となります。ご協力いただいた委員の皆様にご心より御礼申し上げます。

★タスクグループメンバー

伊藤長英理事(苫小牧北)、米光啓彌(宇都宮南)、藤林豊明(横浜鶴見北)、関口博正(杉戸)
土谷宗一(奈良大宮)、北川 哲(大阪南)、栗林英雄(諫早北) *敬称略、ゾーン順

5. 春の叙勲で米山学友が受章！



大島正太郎駐大韓民国日本国大使の祝賀を受ける李さん(右)

平成18年春の外国人叙勲で、2人の米山学友が旭日章を受章しました。今回は、旭日中綬章を受章した李賢起さんをご紹介します。

李賢起氏(韓国/1970-72/筑波大学大学院/東京世田谷RC)

日本の古典文学や日本語教育の研究に多大な業績を残したほか、日本の大学などで、日韓の学術交流を幅広く推進。NHKハンゲル講座やKBSテレビの日本語講座の講師を務めるなど、両国語の普及にも貢献しました。韓国では、日本語教育の先駆者として教科書を出版したり、韓国政府に対する日本語教育の審議及び諮問活動を行うなど、日韓両国の文化理解に大きな役割を果たしています。2005年には日本文化交流基金賞を受賞。

李さんは、「今回の身に余る栄誉は、在韓日本大使館をはじめ日本の皆様から、ご指導とご協力をいただいた結果です。改めて感謝を申し上げます。この叙勲が、私個人の喜びと光栄にとどまらず、韓日両国の学術文化交流、相互理解と親善のために努力しておられる方々への激励に繋がることを切に希望致します」と感謝の気持ちを述べました。

6. 今年も『豆辞典』発行！ — 米山月間資料のご案内 —



“よねやま”について、どなたでも手軽にお読みいただける『米山奨学事業・豆辞典』を今年も発行します。

米山奨学事業の概要や収支決算報告、活躍する学友の紹介、奨学金プログラムなどの基本情報がまとめられています。今年度は、よく寄せられるQ&Aや、来年の地区別奨学生数など、内容をより充実させました。『豆辞典』は全会員分お送りしますので、米山月間ではぜひご活用いただき、会員の皆さまへの理解浸透にお役立てください。

米山月間用資料は、米山役員・委員、ガバナー事務所、全クラブへ9月中旬頃に送付予定です。

台湾学友会主催シンポジウム 締め切り迫る！

9月23日、台北で開催予定のシンポジウム『日本留学を考える』は、ご好評により登録枠を拡大し、申し込み期限を8月15日まで延長しております。現在、日本からの登録者は90名近くです。ご興味のある方はお急ぎ下さい。詳細は当会HP(<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>)、もしくは下記へお電話ください。

(財)ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15
黒龍芝公園ビル 3F

Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL : <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>
編集担当 : 野津・^{のづ}峯・^{みね}おおば大庭